



## プレスリリース

### 一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されましたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる**学術・技術専門家集団**として**社会への情報提供**を行うため、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。

今回は、4月7日にプレスリリースしました東京電力(株)福島第一原子力発電所内の汚染水処理対策の追加情報として、この対策のために収集したデータを学会ホームページに公開しましたので、お知らせいたします。

### 東電福島第一原子力発電所内の汚染水処理に役立つデータの公開について

現在、福島第一原子力発電所におけるタービン建屋地下の溜まり水など放射性物質を多く含んだ汚染水の処理が問題になっています。それらの水には海水が流入しており、そうした環境でも効率的に放射性物質が分離できる処理技術の開発が急がれているところから、日本原子力学会の有志が汚染水の処理対策立案に有用な基礎データの収集に取り組んできましたが、今回そのデータを同学会バックエンド部会ホームページに公開しました。

<http://www.nuce-aesj.org/> (バックエンド部会)

<http://www.nuce-aesj.org/index.php?id=projects:clwt:start>

(福島第一原子力発電所内汚染水処理技術のための基礎データ)

今回対象とした処理技術は、固体の吸着剤に汚染水中のセシウム、ストロンチウムあるいはヨウ素を吸着させて取り除く方法で、吸着剤としてゼオライト系吸着剤23種類、非ゼオライト系無機イオン交換体吸着剤13種類、活性炭4種類を調査しました。海水、あるいは希釈した海水などから放射性物質の吸着剤への吸着率を測定しましたが、600点に及ぶデータは、吸着率に及ぼす海水濃度、水素イオン濃度、吸着剤量/汚染水量の比、放射性物質の濃度、吸着操作時間の影響を網羅しています。これらの基礎データが、汚染水処理システムの構築に役立てられることが期待されています。

日本原子力学会への取材等お問合せ担当：活動事務局／吉田善行  
(日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門内)

TEL: 029-282-5912